

中学生の「税についての作文」

大木町教育長賞

税金は仲間

大木町立大木中学校

三年 吉村実桜

先日、推しのライブへ行った。欲しかったグッズも購入し、夏休みの一番の思い出となった。しかし、私はふと思った。「グッズ代の消費税はどうなっているのだろう。」ネットで調べてみた。代金を請求する際に、消費税を商品価格に含めて表示する方法を「内税」、一方で消費税を商品価格に含めない方法を「外税」という。グッズ代は、一円十円単位のお釣りが出ないように、しっかりと「内税」で十%の消費税が課せられていた。恐るべし消費税！

私は、税金に対して負のイメージしか無かった。インターネットでは、「炎上」が毎日のように起きているし、「お金を取られている」という思いが定着していた。しかも、今まではあまり関心の無い、いわば他人事であった。私は、収入がないので直接的な納税者とは言えないが、今回母からもらった貴重なお金で買い物をし、消費税を支払った事で、税が急に身近に感じられるようになった。しかし、私は税についてあまりにも無知だ。税金が敵か味方かを判断するには、まず相手を知ってからだ。

税金を納める事は、国民の三大義務の一つである。日本に

は、およそ五十種類の税金がある。その中でも、ほとんどすべての物やサービスについて、買ったり、サービスを受ける時にかかる消費税が、私達の日々の暮らしで一番身近な税金だといえる。二〇十九年十月一日に消費税の税率は八%から十%へと引き上げられた。その理由として、主に社会保障の安定的な財政確保の為なのだそう。十%の消費税のうち九割は、年金・医療・介護・子育てなどの社会保障に使われている。残りの一割は、地方の一般財源として、身近な地域の暮らしの為に活用されている。社会保障の財源に、消費税が最適であるといわれているのは、所得税や法人税の税収は、景気の動向などにより大きく変動するが、消費税は、景気に左右されにくく安定的であると共に、働く世代など特定の者に負担が集中することなく、経済活動に中立的だからだそう。納税は、国民の「健康で豊かな生活」を実現する為には不可欠だ。頭では理解できるが、正直、税金を多く払うのは嫌だと思う。

もし、税金が無かったらどうだろう。私は、想像してみた。道路はガタガタで、学生は、十分な教育を受けられなくなる。救急車を呼ぶのも、警察に助けを求めるにも、大金がかかってしまう。病気になったり、年をとって働けなくなったら安心して生活できない。デメリットばかりだ。悪い夢の世界にいるような感覚だった。

税金について調べて分かったのは、税金は敵でも味方でも無く、私達が安心して日々を送れるようにしてくれる仲間だったという事だ。私は、将来社会人となったら、きちんと納税の義務を果たし、税金とより良い関係のまま次世代へと繋いでいきたいと思う。